2025 3月

宮永岳彦記念美術館だより

発行/ 秦野市立 宮永岳彦記念美術館　〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2
TEL / FAX 0463-78-9100

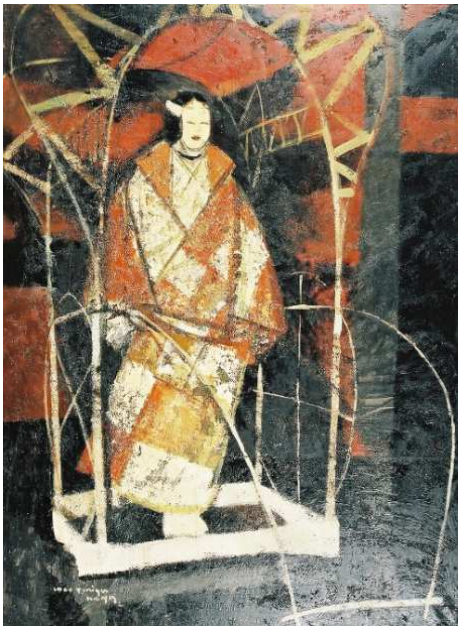
常設展示室

衣装でみる宮永岳彦
～伝統と流行～

＊2024年12月7日(土) ～ 2025年6月1日(日)＊

展示作品より今月の一点

《 熊野 》



能の「熊野（ゆや）」は、平家物語を典拠とし、華やかな春を背景にして憂いに沈む美しい女性の心の動きを描いた演目です。「油絵でもって能自体の重厚さを出せまいか」との思いから、宮永は日本の伝統芸能である能に興味を持ち、能楽堂に通って作品を制作しました。ここに描かれている「熊野」は、老母を思う熊野の気持ちや清水寺から眺める京の春の情景などが情緒豊かに表現された能です。宗盛と熊野が清水寺へ花見に行く場面では、美しい牛車の作り物（舞台装置）が登場します。宮永はその場面を、面と線を使った大胆な筆遣いでキャンバスに表現しました。

能で使用される衣装を能装束と呼びます。代表的なものは、女性役の上着として用いられる唐織（からおり）で、伝統的な格式と絢爛豪華さにおいて世界の舞台衣装の中でも最高峰といえるでしょう。女性の装束では赤が入っているものを「紅入り（いろいり）」、入らないものを「紅無し（いろなし）」と称し、紅入りなら若い女性、紅無しなら中年以降の女性と区別しています。今作品で描かれている赤色が印象的な装束は、若い女性の役であることを表しています。

1964年　油彩　80F

市民ギャラリーのご案内　入場無料

フォトグラフィカ秦野　写真展

2月26日(水)～3月2日(日)
10:00～16:30（初日 12:30 から　最終日 16:00 まで）

会員16名の日頃の写真撮影とレタッチ技術の成果をご高覧の上ご意見をお聞かせいただきたい。

4月の市民ギャラリー展覧会の予定

第6回 秦野丹沢野外彫刻展
「OMOTAN Sculpture Award」マケット展
4月1日(火)～4月13日(日)

写童倶楽部　写真展
4月29日(火)～5月4日(日)

※ 市民ギャラリーの予約はインターネットで行うようになりました。
※ 予約には事前に利用者登録が必要です。詳しくはＨＰをご覧ください。

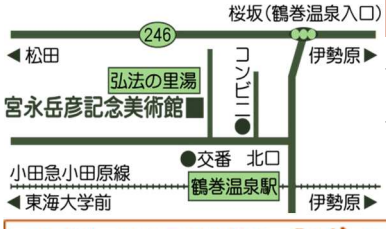
衣装でみる宮永岳彦 ～ひな人形の衣装～

この作品は、子供向け雑誌『チャイルドブック』の3月号の表紙画として描かれました。ひな祭りの楽しい様子が表現されています。

おひな様が着ている十二単衣は、平安時代の女性の正装です。全体の構成は、上衣から順番に、唐衣(からぎぬ)、裳(も)、表衣(うわぎ)、打衣(うちぎぬ)、五衣(いつつぎぬ)、長袴(ながばかま)、単衣(ひとえ)となっています。

ひな人形には、紅梅色から白色に変わっていく色のグラデーションがよく使われます。おひな様の装いは春の季節を表現した色目なのです。

美術館へのアクセス



◆ 小田急線鶴巻温泉駅より徒歩2分
◆ 駐車場　弘法の里湯と共用 40台
1時間150円、以降30分ごとに100円

《隣接》 公営日帰り温泉　弘法の里湯　TEL0463-69-2641

観覧料　・一般　300円　（弘法の里湯利用者は100円引き）
・高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

開館時間　・午前10時から午後7時（入館は午後6時30分まで）

3月の休館日 ： 3日(月)　10日(月)　17日(月)　24日(月)　31日(月)